

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170600227		
法人名	株式会社 東洋測量設計		
事業所名	ふれあいの里たちばな		
所在地	佐賀県武雄市橘町大字片白346番地		
自己評価作成日	平成28年3月12日	評価結果市町村受理日	平成28年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地面積が広くゆったりした雰囲気の中で生活できている点や、ご本人様の思いを大切にし入居者様のペースで生活して頂けるよう支援していること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふれあいの里たちばなは、古民家を改修したホームで、昔懐かしい梁をいたるところで目にする事が出来る。また、ホームは水害の多い地区にあり、災害時に入居者が安全に避難できるようにと、地域の人達からの気配りがある。年に2回(1回は梅雨入り前)、夜間想定で地域の消防団が中心となって職員と一緒に火災・水害訓練を行い、安全に避難誘導が出来るためにはホーム内を知っていたいと部屋の位置、出口、消火器等の確認をしており、地域との協力体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔が出ない時もあるが理念を頭に入れながら笑顔で接するよう努めています	玄関、申し送りを行う部屋に理念が掲げられている。職員への意識づけはなされているものの、言葉かけ等の具体的なケアの場面で行動が伴わないこともある。	職員会議や関わりの振り返り時、理念に必ず触れ、具体的なケアに反映されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での催しに参加したりして繋がりを持っている	地域の人の声かけで、夏祭り、老人会等の行事に積極的に参加している。ホームに老人クラブから唄や踊りの披露やボランティア、小学生の訪問があり、訪問した子ども達からの手紙が壁に掲げられている。ホームからは、老人会、区長会等に出向き、ホームの説明を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会等があった時に出かけて行って認知症の話をする。今後施設に来て頂いて認知症に関する知識を知って頂く機会を設けるようにもしたいと思っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は出来ている。入居者様に関しては相談したことは必ず職員に伝えている	区長・民生委員・地域包括支援センター職員などの参加で2ヶ月に1回開催されている。話しやすい雰囲気の中、ホームの現状や行事を報告し、入居者に関する相談を出席者に行っている。もらった意見は職員に伝えている。しかし、会議録がなく、家族の参加はない。	会議録の作成と、家族が参加できるよう、家族の要望に応じた日の設定を行うなどの工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時はいつでも連絡を取っていますし訪問している	市役所保護課、地域包括支援センターに訪問している。市役所からの訪問もあり、協力関係は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間施錠はしているが昼間は施錠していないし薬による抑制もしていない	身体拘束は行わないようにしている。職員の言葉による行動制限についても、管理者は常に注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し虐待防止に関する知識を習得している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設でも後見人付の入居者様もいらつしゃるので学ぶ機会がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に内容をお話しし強制退所、看取りに関する事も含めて説明し納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時又手紙送付の折、ケアプラン送付の折、意見を頂いている	入居者からの意見や家族の訪問時の会話の中で、また、2ヶ月毎に行う家族への報告やケアプランを送付する時、意見を出してもらうよう促している。出た意見・要望は職員会議で検討したり、ホーム代表に伝え、それらを運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて意見を聞き、判断に迷う時は代表者に相談している	月1回開催の職員会議は、全員参加となっており、管理者が一人ひとりに聞き、出た意見や提案を全員で検討している。その場で解決出来ない時は、代表者に相談を行い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働く形態は考慮しているが向上心を持つよう働きかけはまだ十分とは言えない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を全て把握してはいないが研修内容により判断し機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会が無い。幹部のみになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が困っていること、不安なこと、要望を聞くようにし安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その方の要望、希望に沿うように出来る事はないのか耳を傾けながら信頼関係を積み重ねていくようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様は不安を持って訪問されますのでまず話をゆっくりしっかりお聞きし何をすぐに解決したいと望んでおられるのかを聞き感じ取り当事業所でどんな支援が出来るのかをお話しし他のサービスに関する情報をお伝えしたい		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃は職員主体となっているが入居者様の状況に合わせてお手伝いをして頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙、電話を通し支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にゆっくり話が出来るよう雰囲気作りに努め気軽に寄って頂けるよう場を設けている	職員同行で家族と一緒に墓参りに行ったり、本人の希望する場所へ外出支援している。友人の訪問時には、また来たいと思っていたるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士と一緒に語り合えるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今は対象の方がおられません但し今後は「何か心配な事、お困りの事がありましたらお寄り下さい」と言葉かけを残したいと思っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から思いを知るよう努め入居者様のペースでの生活を大切にしている	本人との日常会話の中や家族の訪問時に情報を得て、希望や意向を把握してケアに活かすようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、ご家族様、記録を通し生活歴、暮らしのスタイルを知りそれを支援に結び付けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々が気づいたことを意見交換をしながら状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが介護計画書作成する際入居者様、ご家族様と話しをしながらプランを作り計画書に反映している	本人や家族の希望を大切にし、主治医や職員からの情報を得て、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを行い、現状に即したのものになっているか検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を通し(申し送りノートも活用しながら)情報を共有している。見直しにもそれを生かすよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の要望があれば出来ない事もあるが希望に沿うよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催しに参加し楽しみの機会として頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診にて入居者様のが安心して生活できるよう支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医による診療を受けている。訪問診療が困難な時には、職員が希望の医療施設に同行し、適切な医療を受けることができるように配慮をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態報告、ご相談しながら適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された折はこちらでの状況が分かるよう詳細な情報を提供し面会時は可能なら師長に近づき状態をお尋ねしたり必要な物品が無いからお尋ねして関係性を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時(契約時)にご家族様とお話し事業所として出来る事をお伝えすると共にご家族様の間での話し合いを十分に持って頂き一致した結論の上支援に取り組みたい	重度化や終末期について、希望すればホームでできることを入居時に家族へ伝えている。重度化した場合は、主治医による訪問診療や訪問看護などによる支援を行う体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員と言えないまでも出来ていない。今後応急手当、対応の勉強、実践力を身に付けたい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団との連携は出来ている	水害の多い地区であり、年に2回、夜間体制で消防団と一緒に火災・水害訓練を行っている。部屋の位置や出口、消火器の確認、避難場所などを消防団と一緒に確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬と敬意を持って接しているが時折慣れ親しんだ言葉かけをしてしまっている	本人を傷つける言葉になっていないか、興奮時には対応の仕方にも問題がないかと、その場や職員会議等で検討をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をする中で気持ちを汲み取り自分の思いを話して下さるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の入居者様のペースを大切に寄り添うよう努力しているが更に入居者様が一日をどう過ごしたいか声を聴くことは大切と感じている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が心配りをし外出時はおしゃれを楽しまれるよう支援していきたい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の体操、歌を楽しまれています。食事を共にすることによって笑顔も多いと感じる。さらに食事の準備で活躍の場面を多く取りたい	白和え、おやつ作りなど、職員と一緒に調理し、ゴマすり、食器拭き、下膳は手伝ってもらっている。誕生日には希望する献立にし、家族や職員と外食に行ったり、食事を楽しめる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面のバランス、水分摂取は昼間だけではなく夜間も支援できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけをし口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけも含め昼間は布パンツ、夜間は紙パンツしようと分けながら入居者様のご状態に応じて支援している。パット着用は最小限に留めている	トイレでの排泄を支援し、昼間は布パンツ、夜間は紙パンツを使用している。排泄チェック表や本人の動きで察知し、さりげなくトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面にも気を配り運動も取り入れたりしている排便が無い時が続く時のみ緩下剤服用にて対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を各々分けてはいるがご本様の希望、予定を考慮し曜日をずらすなどし対応している	2日に1回、午後入浴が基本となっているが、順番や時間、回数など希望すれば、希望に沿って行っている。拒否の場合は、コミュニケーションの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境(温度)を観察し対応し安眠に繋がるよう支援している。入床時の挨拶、見守りにも安心して休まれる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートにての確認、服薬介助を行い服薬確認している。その後の様子観察も行う		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のすべてではないが可能な限り望むことを行い楽しみ、気分転換等が図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様のご要望を尋ね遠出の外出をしたりドライブ、買い物等を一緒に行い楽しんで頂いている	希望したら自宅、慣れ親しんだ場所を訪問している。花見など遠くへドライブに行くこともあり、ホーム周りの散歩は、希望に応じて支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての入居者様ではないものの希望に沿いお小遣いを手元に持って好きなジュースを飲まれています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話して頂いたり、お手紙の中にご本人様よりのメッセージを書いていただき送付し思いが伝わるよう支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には入居者様が活けて下さった花を置き季節感を身近に感じて頂いたり心地良く過ごせるよう音楽も考慮し工夫している	花を好きな入居者により、玄関に花が活けられ、食事の時は状況に応じた音楽が流れ、心地よく過ごせる様工夫をしている。しかし、トイレや洗面所の扉が故障したり、ホームの前に排水が流れて水がたまっている。	トイレ、洗面所の破損、ホーム前の水たまりは転倒などの事故発生の原因となる危険性があり改善が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにてくつろいだり食事にて過ごしたりまた自室で一人の時間を楽しんだり好きな場所にて過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた品物、家具、写真を飾りご本人様が居心地良く過ごせるよう工夫している	居室には写真や使い慣れた品々、本人や家族の写真を飾り、安心して暮らせる部屋になっている。花が好きな入居者は、プランターで花を育てることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が迷われないで生活出来るよう居室ドア前に花の絵を飾ったり目印としての役割も兼ねて対応している		